九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Forming Community in James Joyce's Works: The Recurrence of Classical Themes and Visual Culture

岩下, いずみ

https://hdl.handle.net/2324/4784373

出版情報：九州大学, 2021, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

（様式６－２）

氏　　名	岩下　いずみ
論　文　名	Forming Community in James Joyce's Works: The Recurrence of Classical Themes and Visual Culture （ジェイムズ・ジョイス作品における共同体形成－古典テーマの反復と視覚文化－）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　鵜飼　信光 副　査　　九州大学　　准教授　　高野　泰志 副　査　　九州大学　　教授　　髙木　信宏 副　査　　西南学院大学　　教授　　河原　真也

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

上記の論文は、アイルランド生まれの作家ジェイムズ・ジョイス（1882-1941）の作品を視覚という観点から考察するとともに、ジョイスが古典そのものだけでなく、近年の視覚文化作品を通して古典を作品の下敷きにしたことを、複数のジョイス作品と近年の視覚文化作品を照合しながら論証するものである。本論文は、古典テーマ、視覚文化というジョイス研究では従来分離しがちであった二つの観点を組み合わせることによって、ジョイス作品における人々の共同体形成について新たな知見を見出すものでもある。

序論、結論以外に 6 章から成る本論文の第 1 章は、短編集 *Dubliners*（1914）所収の“Grace”を取り上げ、17 世紀のイエズス会士が発明に関わり、信徒の教育、布教にも用いられた「幻灯機（magic lantern)」という視覚に訴える装置への独自の注目により、主人公のカトリックへの懐疑と、彼と友人たちが参加した静修というカトリックの儀式における共同体形成の主題を解明する。

第 2 章も「家族写真」という、19 世紀後半から庶民に広がった視覚に関わる品に独自に着目しながら、*Dubliners* 所収の三作品“Eveline”、“A Little Cloud”、“The Dead”に描かれる家族写真が通常と違って、満たされない家庭生活をむしろ反映していることを考察し、家族という最小単位の共同体の麻痺の諸相を解明するとともに、“The Dead”が示す新たな共同体の可能性に注目する。

第 3 章は、*A Portrait of the Artist as a Young Man Portrait*(1916) における主人公 Stephen Dedalus が、知り合いとしょっちゅう出くわすダブリンにおいて、見知らぬ人々が行き交うパリにおいてとは違う独特の仕方で、遊歩者として成長して行く過程を特に視覚との関連で考察し、彼が共同体を導く社会的役割を持つ芸術家としてアイルランド離脱を決意する背景を解明する。

「鳥占い師」は鳥の動きから国事を占う司祭の側面も持つ、古代ローマ以前にまでさかのぼる存在だったが、第 4 章は、*A Portrait of the Artist as a Young Man* 中の鳥占いへの言及に着目しながら、Stephen が古代ギリシャから連綿と続く社会的役割を担うべき芸術家という理念を継承する者として描かれていることを解明し、そこに古典テーマの反復と、視覚文化の介在を見出す。

第 5 章は、戯曲 *Exiles*(1918)を取り上げ、チェンチ伝説を下敷きにした Shelley の *The Cenci* と、映画館事業を手がけた際鑑賞したと思われる映画 *Beatrice Cenci* (1909)が *Exiles* に繋がっていることを論証し、*Exiles* に視覚芸術を介した古典的テーマの反復が見られること、自発的亡命者である芸術家の系譜及び共同体としてジョイスが Shelley と精神的に結びついていることを考察する。

第 6 章は、*Ulysses*（1922）の主要人物 Bloom 父 Rudolph と、Bloom の娘 Milly の間に、写真

という視覚に関わる技術への共通の傾倒があり、その三者の継承には新しいヨーロッパ人の誕生と未来が示されていること、作品の開かれた結末が、Bloom の家族と Stephen を加えた疑似家族という共同体の可能性を示唆すること、ジョイスが視覚文化を介した古典テーマの反復によって、過去から現代までを作品に封じ込めるとともに、それまでの共同体の礎を継承していることを解明する。

本論文は、視覚や視覚に関わる物、芸術の観点から、視覚文化作品がジョイスの古典テーマの反復の下敷きになっていることに注目し、作品に描かれる麻痺した共同体の現状や未来への希望を新たな視点で見直すことによって、ジョイス研究に寄与する成果を上げており、本調査委員会は本論文の提出者が、博士（文学）の学位授与にふさわしいことを認める。